



# れんけいと支援



富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112 (代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp> / 発行日 2010年7月

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

## 看護職員研修の 努力義務化について



副病院長（看護部長） 池上 澄子

看護部では当院が地域医療支援病院を目指す時決定した時から、地域医療支援病院としての看護部のあり方を模索してきました。医療への依存が高い状況で退院される患者さんが多くなっている中、連携やケアの継続の視点から、地域の関係する皆様との合同カンファレンスの開催や転院時の看護情報の工夫、褥瘡等のケアを直接見て頂くなどをしてきました。しかし、もっと広く地域全体の看護のレベルアップを考えていくことも地域医療支援病院の役割の一つであると考え、平成19年度から看護部で実施している研修会を全て地域に公開しました。平成20年度には地域からの要望で出前研修が始まり、平成21年度には21回の出前研修をさせて頂きました。内容は、接遇・看護記録・医療安全・感染対策・キネステック・メディエーション等さまざまですが、担当したスタッフが地域を知ることによって一段と成長していく姿をみて、依頼して下さった施設の皆様には感謝するとともに、改めて教育をお互いが成長しあうことを実感しております。

さて、この看護職員研修が、平成21年7月の保健師助産師看護師法および看護師等の人材確保の促進に関する法律の改正で下記の点が明記され、平成22年4月1日から施行されています。

### <保健師助産師看護師法>

保健師、助産師、看護師および准看護師は、免許を受けた後も、臨床研修等を受け、その資質の向上に努めなければならないこと。

### <看護師等の人材確保の促進に関する法律>

病院等の開設者が、新人看護職員研修の実施や、看護職員が研修を受ける機会の確保のため、必要な配慮を行うよう努めなければならないこと。

看護職員本人の責務として、免許取得後も研修を受けるなど、自ら進んで能力の開発・向上に努めること。

これらを踏まえ、国や県、看護協会が動いていますが、当院でも厚生労働省から出されている新人看護職員研修ガイドラインに沿って、新人看護職員研修も地域から受け入れることができるように整備しました（ホームページをご参照ください）。

これからも地域の皆様からのご意見・ご要望をお聞きしながら、さらに研修を充実させ、共に成長していくことができたらと考えておりますので、よろしくお願いたします。

## Contents

看護職員研修の努力義務化について... 1	
研修・講演・勉強会のご案内..... 2.3	
7月の地域連携・開放型病床症例検討会報告... 3	
診療所・病院・施設訪問..... 4	
接遇力向上研修会報告..... 5	
「新人看護師3ヶ月研修」を終えて..... 5	
緩和医療委員会からのお知らせ..... 6	
「看護の技がもたらす効果 - 触れること・聴くことの気づき -」... 6	
プレストケア（乳がん看護）勉強会... 7	
医師不在のお知らせ..... 7	
認定看護師とエキスパートナースからのメッセージ... 8	
編集後記..... 8	

1. 地域連携・開放型病床症例検討会



8月 日時：8月10日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂  
ミニレクチャー：「機能性ディスぺプシアの診断と治療」 消化器内科 水野 秀城

上腹部愁訴には、胃もたれ、胃部不快感、心窩部痛など上腹部を特定する症状と、悪心、嘔気、嘔吐のように上腹部の異常から発すると想定される症状が含まれます。このような症状があっても、胃あるいは上部消化管に器質的疾患が認められないもの、潜在的にこのような症状を誘発する可能性が考えられる生化学的および内分泌学的異常がないもの、そして症状が慢性的に繰り返し出現するものが機能性ディスぺプシアすなわちFD (functional dyspepsia)の概念です。

分泌異常、そして内臓知覚過敏の3つの要因が大きく関わっています。その他にピロリ菌感染による胃粘膜の炎症やストレスなどの心因的要因も原因と考えられ、FDの病態は多因子由来で複雑であるとの考えが一般的です。

FDの成因については、消化管運動異常、胃酸

FDの治療にあたって重要なことは、FDが患者のQOLを著しく低下させる病気であることを理解し、患者の訴えやこれまでの診断と治療経過を十分に聞くことです。治療薬としては、消化管運動機能調節薬、胃酸分泌抑制薬、抗不安薬などがあり、その治療効果にはエビデンスが明らかにされています。

症例検討

- ・扁桃炎、十二指腸炎を合併した糖尿病ケトアシドーシスの一例（36歳 男性）

紹介医：松田内科クリニック 松田 達郎先生 内分泌内科 高櫻 明子

- ・左乳癌に対し術前化学療法後に手術を施行した一例（59歳 女性）

紹介医：北川 勲先生 外科 吉川 朱実

9月 日時：9月14日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂  
ミニレクチャー：「急変時の心肺蘇生法について」 救急科 野田 透

2. 内科CPC



8月はお休みさせていただきます。

3. とやまレントゲン読影会



8月はお休みさせていただきます。

4. 糖尿病研究会定例学習会



日時：8月5日（木） 17：30～18：30

場所：集団指導室

テーマ 「糖尿病の食事療法」

講師 中嶋 和代管理栄養士

5. 褥瘡対策学習会



日時：8月27日（金） 17：45～

場所：集団指導室

テーマ 「適切な体位と体圧分散寝具、  
圧の測り方」

講師 井田 しのぶ看護師長

松野 由美子看護師

日頃ケアしている患者さんの褥瘡について検討を希望される方は、褥瘡部の写真を3日前までにふれあい地域医療センターまでお送り下さるか、当日ご持参ください。

## 6 . NST学習会



日時：8月30日（月）18：00～19：00

場所：講堂

テーマ 「摂食・嚥下リハビリテーション」

講師 山本 久美子言語聴覚士



## 7 . 看護研修



《現任教育》

日時：8月2日（月）13：30～16：30

場所：講堂

テーマ 「教育原理・管理・評価」  
「教育方法」

《衛星研修SQUE Eナース》

日時：8月4日（水）18：00～19：20

場所：講堂

テーマ 患者の心理を知ると看護が変わる

日時：8月18日（水）18：00～19：20

場所：講堂

テーマ 看護におけるアサーティブコミュニ  
ケーション

《新医療看護連携》

日時：8月25日（水）18：00～19：30

場所：講堂

テーマ 地域連携パス「C型肝炎」

## 《連載企画》 診療所・病院・施設訪問 64 布谷整形外科医院

今回は「布谷整形外科医院」を訪問させていただきました。

名 称	布谷整形外科医院
住 所	富山市西四十物町3番8号
医 師	布谷 猛 先生(院長)
標 榜 科	整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科
診察日・時間	平日 9:00~12:00 14:00~18:00 土曜日 9:00~12:00 14:00~17:00 水曜日午後・日曜・祝日 休診
施設区分	有床診療所

### 訪問記



布谷先生



布谷先生とスタッフの皆様



介護予防通所リハビリテーション

あじさいの花に降り注いだ雨露が雨上がりの陽射しに光る6月21日の午後、富山市西四十物町で開業されている「布谷整形外科医院」を訪問させていただきました。

布谷整形外科医院は、一般病床と療養病床、そして通所リハビリセンターを備え、医療相談室の開設や病診連携など地域医療に積極的に関わっておられます。当院へ定期的に病床状況をご連絡いただいております。当院との医療連携においても日頃から大変お世話になっています。

昭和47年からこの地で開業されている布谷猛院長先生は、富山市総曲輪の出身と伺いました。市街地に位置するこの地域には、当時多くの診療所や病院があったそうですが、医師の高齢化や中心市街地の人口減少が原因で、今では数えるほどになったとのこと。「最近、病気で入院した高齢者が、回復しても家族の心配から、療養型の施設への入所を希望されるケースが増えてきています。半面在宅での介護も多く、家族の介護負担軽減のためにも、介護度が高い方のショートステイも積極的に受け入れております」と伺いました。また、通所リハビリセンターでは、デイケア以外に、地域と密着した介護予防通所リハビリテーションも開設しておられ、専門の介護予防運動指導員が個々の症状に応じた機能訓練を行って介護予防や、社会生活、家庭生活への復帰を支援

しているとのこと。先生のモットーをお伺いしたところ「患者の訴えをよく聴くこと」そして「地域の皆様に、布谷整形外科医院があつてよかったと、言ってもらえる医院でありたい」とお話しくださいました。

また先生は、スポーツドクターとしてもご活躍されており、富山少年野球リーグの発足後、昭和61年からはリーグのスポーツドクターとして医学教室を、平成3年からは、選手たちのスポーツ障害である野球肘の健診も行っておられます。子ども達の診察や、保護者への講演を通して、子ども達の身体発育に応じた運動を行うことの大切さを唱えておられ、今後も指導し続けていきたいとのことでした。

畑作りと鮎釣りがご趣味という先生の温和で優しいお人柄に触れ、スタッフの皆さんの明るい家庭的な雰囲気に包まれて、私たちも大変癒される思いで帰路につきました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。

## 接遇力向上研修会報告

接遇向上委員会 置塩 良政



6月16日（水）と6月29日（火）に約3時間ずつ、新しく採用された職員および2年目職員を対象とした接遇力向上研修会を行いました（内容は2回とも同じ）。講師は当院接遇向上委員会の委員長である置塩が務めました。

今回から院外にも案内をしましたところ、2回あわせて19の医療・介護・福祉施設から52名の職員の申し込みがあり、院内の職員との合計で約100名の皆様に参加していただきました。職種は看護師・介護福祉士・栄養士・放射線技師・事務職員などさまざまで、院内・院外それぞれ3名ずつのグループを作り、講義とグループディスカッションを中心に行いました。

内容は、医療機関における接遇の位置づけと必要性、院内（施設内）コミュニケーションと医療安全の関係、およびこれだけは知っておきたいポイントについてなどで、ディズニーランドなど他業種での取り組みも交えて説明いたしました。参加者の皆様にはそれぞれのグループで意見を発表したりメンバーの意見を聞いたり、ふだんできない体験をしていただきました。研修会後のアンケートでは、「グループディスカッションでは他の施設の人の意見が聞いてよかった。もっとやりたかった。」「わかりやすい内容で、初めて接遇の大切さがわかった。」「学んだことを自施設で皆に伝えたい。」など、前向きな意見をたくさんいただきました。ありがとうございました。



接遇は一回研修を受けたからOKというものではなく、職員全員で継続的に取り組んでいくことが重要です。今回の研修会で学んだことを一つでも実行していただき、それぞれの施設・部署で接遇が根付いていくことを願っています。



なお、接遇向上委員会では、地域の医療・介護・福祉施設へ出向いての「出前講演」にも対応しています。ご希望がありましたらお気軽に「ふれあい地域医療センター」にご連絡ください。

## 「新人看護師3ヶ月研修」を終えて

当院では、就職して3ヶ月目の新人看護師に『3ヶ月目の自己を振り返り、自分なりのストレス軽減法を見つけることができる。』ことを目的に、毎年研修を行っております。

患者さんや同僚とのコミュニケーションの取り方・必要性を学び、一方で病院を離れ自分が趣味を持ち、関わりたい事を導き出すための手助けとして、富山ガラス工房での作品制作を行い、リフレッシュを図っております。

お互いが関わりあう事で、同期同士のきずなも深まり、気分一新してこれからも笑顔と優しさで患者さんに寄り添う看護師になれると自信を深めた研修でした。



## 緩和医療委員会からのお知らせ

緩和医療委員会では、毎月学習会を開催しています。今回は6月と7月の学習会をご紹介します。

6月9日に、富山県移植推進財団の県移植コーディネーター、高橋絹代先生と富山県アイバンクの組織移植コーディネーター、入江真理先生を講師に「グリーンケアとしてのエンゼルメイク」というテーマで実技を交えた講義をしていただきました。院外から4名、院内55名合わせて59名の参加者となりました。エンゼルメイクの定義等の講義後、2組に分かれてクレンジングから最後の仕上げまで、実際にモデルに触れながら実施することができました。夜勤明けのモデルの顔色がうっすらピンク色に変化しきれいになっていく様に、参加者は驚きと、グリーンケアに繋がるエンゼルメイクの重要性を実感した学習会となりました。



7月13日には、当院の石川見佳薬剤師から「がん性疼痛に対する薬物療法」と題して医療用麻薬について講義がありました。医師、看護師等コメディカルを含めて36人の参加がありました。患者さんに誤解されやすい医療用麻薬について、説明のポイントや副作用対策など詳しく説明を受け、薬の専門家である薬剤師からじっくり話を聞くよい機会となりました。



次回は9月14日(火)に不安を抱えている家族との関わりなどについて「家族ケア・コミュニケーションスキル」と題して開催を予定しています。

### 睦美会看護講演

## 「看護の技がもたらす効果 - 触れること・聴くことの気づき - 」



睦美会 教育部 水野 友紀

平成22年7月12日(月)の17:30より、佐久大学看護学部看護学科尾崎フサ子教授による看護講演「看護の技がもたらす効果 - 触れること・聴くことの気づき - 」を開催いたしました。参加者は市内の看護学生19名、院外11施設32名、院内看護師146名の計197名と、多数の方にご参加いただき、熱気あふれる会場となりました。

講演は、本来の看護師の業務を見直すという目的に沿い、ナイチンゲールの看護の概念から始まり、「患者さんとの回想法を用いた対話」「笑顔でコミュニケーションをとることの必要性」「直接意図的にタッチすることでメッセージを伝えることの大切さ」などについて学びました。また、オリーブオイルを用いてお互いに手をマッサージしたり、背部マッサージを行ったりと実践を交えた講演で、先生の笑顔とわかりやすい内容、優しい語り口によって終始なごやかな雰囲気で行われました。

先生から「今回の講演を受けて、これから何ができますか?」と直接インタビューを受けた看護学生は、「笑顔で接すること」「マッサージ!」と返答があり、院内看護師からは「なかなかお部屋に入れないで戸惑う状況に出会った時にはどうしたらいいのか?」の問いに、「やはり“笑顔”で『私に何かできることはありませんか?』と入っていくこと、そして「子どもにもこのようなマッサージは効果があるのか?」との問いには、「お子さんにも十分効果あると思います。できたら、家庭においてもご主人にもされてはいかがでしょうか」といったユーモアある回答もありました。講堂内をパワフルに移動される先生から、参加された方は溢れ出るパワーをいただけたのではないのでしょうか。

当睦美会では、これからも多くの方々に参加いただけるような看護講演を企画していきますのでよろしくお願い申し上げます。



## ブレストケア（乳がん看護）勉強会

ブレストケアエキスパートナース 織田 智詩子

7月22日、今年度第1回ブレストケア勉強会において、講師に国際毛髪科学研究会 会長 井上哲夫先生をお招きし、「頭皮・頭髪セミナー」と題し講演を開催いたしました。

化学療法中の頭皮・頭髪の知識、頭皮ケアの注意、日常生活の中で使える身近な情報まで、今後の看護に役立つ内容を学ぶことができ、実践していきたいと考えました。

ブレストケア（乳がん看護）勉強会では、10月と1月に勉強会を予定しております。地域の皆様には日時内容等について、事前にお知らせいたしますので、今後ともご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。



## 医師不在のお知らせ

外来担当日の休診のみ掲載

8月分

科名	不在日	医師名	科名	不在日	医師名
内科	17日	余川	整形外科・関節再建外科	3日・6日・13日・20日・31日	澤口
	16日	石田		9日・23日・25日	伊藤
	17日・24日	清川		17日	坂越
	6日・17日	寺崎(敏)	泌尿器科	2日	元井
	16日	林		30日	児玉
	2日・19日	石浦		20日・24日	岩佐
	19日	大田	形成外科	20日・23日	置塩
	5日・20日	寺崎(靖)		13日	瀬戸
11日	千代	脳外科	23日・25日	宮森	
眼科	5日・6日・9日・23日		山田	17日	得田
	27日		清水	3日・5日・20日	山野
呼吸器・血管外科	25日・26日	草島	小児科	6日・30日・31日	金田
	3日	瀬川		しばらくお休みさせていただきます	西浦
	5日	峠	産婦人科	30日・31日	三輪
外科・乳腺外科	12日	泉		20日	山西
	3日・4日・5日	廣澤		5日・6日	金枝
	19日・20日	福島	皮膚科	9日・10日・11日	野村
	11日・12日・17日	野島		小児外科	18日
	30日	吉川	8月5日・6日 OPEのため休診		
歯科	26日・27日	寺島	精神科	27日	長谷川
				23日	伊東

その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。



## 認定看護師とエキスパートナースからのメッセージ



### 腎不全看護 エキスパートナース編

腎不全看護では、現在4名の看護師が腎不全看護エキスパートナースとして活動しています。活動内容は、慢性腎臓病（CKD）や慢性腎不全の患者さんが日常生活をその人らしく送ることができるよう内科外来で腎臓病相談窓口を設け、患者さん一人一人に合わせた支援を行ったり、CKD地域連携バスを利用してかかりつけ医との連携を図っています。また、透析療法を受けることになった患者さんには、血液透析または腹膜透析の治療を自分の生活スタイルに合わせて選ぶことができるよう、分かりやすく情報を提供し、療法選択クリニカルパスを使用して安全な透析医療を受けることができるよう援助しています。

専門教育活動では、学習会の企画、若手看護師を交えてのマニュアル作成、スタッフが学びやすい環境の整備や、使用しやすい指導パンフレットの充実を図っており、新人やスタッフを支える教育体制にも努力しています。さらに認定看護師へのキャリアアップも目指して、今年度1名の腎不全エキスパートナースが、透析看護認定看護師の資格を取得しています。

現在、日本では成人8人に1人がCKDと言われ、さらに透析療法を受けている患者さんは28万人に達しています。私たちエキスパートナース4名は、腎臓病を抱える患者さんのためにより専門性を高めるため、自己研鑽やキャリア開発に日々励んでおります。



## 編集後記

「れんけいと支援」の編集委員となって、はや3ヶ月が経過いたしました。当院が地域医療支援病院として、地域の皆様とともに活動し、院内ではさまざまな職種のスタッフが活動していることに、あらためて気付かされています。

薬剤師もまた、時代の変化、変革とともに当院においても調剤中心の仕事に加え、入院患者さんへの薬剤管理指導業務、化学療法のレジメン管理、抗癌剤のミキシング業務、糖尿病教室、腎臓病教室、ICT・NST・緩和ケアなど、活動の場を広めています。最近では、地域薬局に対してセミナー活動を始めており、今後は当院薬剤師と地域の薬剤師が「連携と支援」を深め、よりいっそう顔の見える連携を図りたいと考えています。

薬剤部 吉崎 洋一



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 FAX 076 (422) 1154

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/>  
がん・なんでも相談室：メールアドレス [shien@tch.toyama.toyama.jp](mailto:shien@tch.toyama.toyama.jp)